

第6回 奈良女子大学

オリンピック・公開シンポジウム



オリンピックとスポーツ・ボランティア

日時 2018年11月17日(土)
14時～16時15分

会場 奈良女子大学 G棟101教室

シンポジスト

仁平典宏 (東京大学准教授)

「オリンピックボランティアと「物語」の動員
——「やりがい搾取」論を問い直す」

石坂友司 (奈良女子大学准教授)

「長野オリンピックからみたスポーツ・ボランティア」

浜田雄介 (京都産業大学講師)

「トライアスロン大会におけるボランティアとは」

コーディネーター 井上洋一 (奈良女子大学教授)

主催 奈良女子大学生活環境学部心身健康学科スポーツ健康科学コース

入場無料／事前申込不要

シンポジウム開催の趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催にあたって、このムーブメントがどのように歴史的・社会的に継承されてきたのか、そしてそこに東京、日本がどのような意義を新たに書き込むことができるのかを検討することが重要である。

第6回目となる奈良女子大学・オリンピックシンポジウムは、ボランティアについて議論する。東京大会では8万人のボランティアの募集が行われ、その意義とやりがい強調される一方、長期間、長時間にわたって活動に従事しなければならないことから、条件面への批判やボランティアそのものの本質を問う声も高まっている。一方で、昨今のマラソンブームに代表されるように、地域興しを兼ねたイベント開催は、スポーツ・ボランティアと呼ばれる人びとの支援なしには成立しなくなっている。このようなイベントや地域社会、ボランティアとの関係性をどのように考えることができるのだろうか。

本シンポジウムでは、ボランティアにはどのような社会的意義があるのか、その存在が開いていく社会の可能性と課題について、東京大会との関係性から議論したい。

アクセス

近鉄奈良駅西側改札、右手出口より徒歩5分。
南門よりお入りください。当日は大学入試実施のため、正門は利用できません。
お車での来学はできません。



登壇者

シンポジスト

仁平典宏（東京大学准教授）

「遍在化／空洞化する『搾取』と労働としてのアート——やりがい搾取論を越えて」（北田暁大他編，2016，『社会の芸術／芸術という社会』フィルムアート社，201-226）

『「ボランティア」の誕生と終焉——〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（2011，名古屋大学出版会）

石坂友司（奈良女子大学准教授）

『現代オリンピックの発展と危機 1940-2020——二度目の東京を目指すもの』（2018，人文書院）

『〈オリンピックの遺産〉の社会学——長野オリンピックとその後の10年』（石坂友司・松林秀樹編，2013，青弓社）

浜田雄介（京都産業大学講師）

「純粋贈与としてのエンデュランススポーツ」（広島市立大学国際学部〈際〉研究フォーラム編，2017，『〈際〉からの探究』文真堂，210-221）

「エンデュランススポーツの体験に関する一考察——広島県西部のトライアスリートの事例から」（2013，『スポーツ社会学研究』21（1）：111-119）

コーディネーター

井上洋一（奈良女子大学教授）

『〈ニッポン〉のオリンピック——日本はオリंपイズムとどう向き合ってきたのか』（小路田泰直・井上洋一・石坂友司編，2018，青弓社）

「スポーツイベントの開催と環境保全」（菅原哲朗他監修，2017，『スポーツの法律相談』青林書院，328）

お問い合わせ先

奈良女子大学スポーツ健康科学コース 石坂友司 E-mail: yishizaka@cc.nara-wu.ac.jp / TEL/FAX: 0742-20-3347